

自校の指導ツールを他校の教師とともに検討し、各校の生徒特性に合った形へ改善を図る本コーナー。今回は、1、2年生の三者面談で語り合うべきテーマや面談後の生徒への声かけなどを整理する三者面談シートについて検討する。

長野県屋代南高校 高橋正俊先生提供  
「三者面談シート」

Before

面談日時	①学業成績 通知表	②学習面 学校での様子	③部活動	④進路について	⑤ご家庭より	⑥その他
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

課題

- 1 保護者からの相談事が中心の三者面談になってしまい、生徒の発言機会が少なくなることがある
- 2 話されたことがその場限りになり、次回以降の二者面談、三者面談につながっていかないことがある

検討メンバー



ツール提供者

長野県屋代南高校  
高橋正俊  
たかはし・まさとし



福井県立高志高校  
西 繁寿  
にし・しげひさ



福岡県立東筑高校  
辻本貢士  
つじもと・こうじ

三者面談に軸をつくり、  
生徒が語る場面を増やしたい

長野県屋代南高校の高橋正俊先生は、1、2年生の三者面談において、事前に面談で取り上げたい話題をメモしておいたり、面談中の生徒や保護者の発言を書き留めたりするための三者面談シートを活用してきた。シートには学習や部活動、進路など、1、2年生の生徒の状況を多角的に把握する観点が設けられており、実際の面談でも話題は多岐に広がるが、時折、保護者との世間話のようになってしまいうことが気がかりだという。また、保護者からの相談事が中心となる場合もあり、保護者と教師との二者面談のようになってしまったため、生徒が語る場面を増やしたいという課題感も持っていた。

# 1、2年生 三者面談シート

## After

改良ポイント

### ① 三者面談の山場を明確にし、三者が語り合う場をつくる

三者面談の山場を「生徒を褒める」「生徒を励ます」「生徒が決意する」とし、面談前の話題整理から面談当日での生徒の発言までをその山場につなげていく。

### ② 面談後にかかるべき声と次の面談での課題を整理

三者面談の中で発せられた生徒の決意や宣言を見守っていくために、後日どのような声をかけるか、次の面談で確認すべきことは何かを書き留めるようにする。



## 三者面談シート

年 組 番 氏名

記入日 月 日

面談前	面談で話題にすべきことの事前整理	<input type="checkbox"/> 生徒が面談で保護者に伝えたいこと <input type="checkbox"/> 生徒と保護者の進路観のズレ <input type="checkbox"/> 担任からの提案や質問
	面談中での生徒自身による今学期の振り返り	
面談当日メモ	上記を踏まえて	
	保護者に伝える「生徒の褒めどころ」	
	生徒に伝える「励まし・課題」	
	生徒が発する「決意・宣言」	
	保護者からの要望など	
面談を終えて	後日、生徒にかけたい前向きな言葉	
	次の面談に向けて	

次ページでは、3人の先生方の検討の様子をダイジェストで紹介!

「何を語り合うか」よりも「何のために語り合うか」を重視

1、2年生の三者面談は、生徒が保護者や教師の前で「これからはこうありたい」と前向きに未来を語り、決意表明をする場でありたい。そのためには、教師が保護者の前で生徒を肯定的に評価し、生徒に自信を持たせる場面も必要である。また、生徒が決意表明した内容について、その場限りで終わらないように、三者面談後に教師が生徒に意図的に声かけをすることも重要だ。そこで、面談で話題とする観点を広げること以上に、三者面談前・当日・面談後という時間の経過の中で、生徒が自己肯定感を高めながら新たな挑戦を決意すること、それを教師と保護者が見守ることを、三者面談の軸として重視することとした。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け → 生徒指導・進路指導ツール集」をご覧ください。

## 1、2年生 三者面談シート



## 活用の流れ

- 1 面談前に、①生徒が考えておくこと、  
②生徒が保護者と話しておくことを  
生徒と整理する
- 2 「生徒を褒める」「生徒を励ます」  
「生徒が決意する」という観点を  
重視した面談を実施
- 3 面談後の声かけに対する生徒の反応などを  
「三者面談シート」にメモした上で、  
次回の面談資料として活用する

生徒が「これから」を語れる  
雰囲気をつくるファシリテーターに

三者面談のねらいは、学年や時期によって異なるが、1、2年生の三者面談で共通するのが、「今後、どうありたいか」を生徒自身に語らせることだ。ただ、目標やその実現のためにするべきことを具体的に語れない生徒も少なくない。その原因は、目標が具体化していないことにある場合もあれば、自分に自信がなく、保護者や教師の前で言葉にすることができないといったことにある場合もある。そのため、三者面談の前ではまず、生徒のよさを教師が保護者の前で確認することで、生徒、保護者にそれぞれの思いを語らせやすくしよ

うと意見が一致した。生徒を褒めた上で、教師が「努力が必要なこと」を述べれば、生徒は「今後取り組みたいこと」を言葉にしやすくなるだろう。

三者面談においてファシリテーター的な役割を務める教師には、三者面談で何を話題にするか、ある程度事前に整理しておくことは必要だ。しかし、語り合うべきことの真の優先順位が分からない生徒も少なからず存在する。三者面談の事前準備も一律に対応できるものではなく、「このことについて事前に家庭で話しておきなさい」と教師から伝えたり、「三者面談で話題にしてほしいことは何？」と生徒に尋ねたり、個別対応が重要であるといった意見も聞かれた。

検討メンバーの先生に、自身の指導観や自校の生徒特性を踏まえて、ツールの活用方法や留意点などをお話いただきました

## 生徒が勇気を持って「To Do」を語れる面談をつくる

長野県屋代南高校 高橋正俊 たかはし・まさとし



三者面談シートには、面談当日に何を聞き、何を伝えるかをメモしたり、生徒や保護者から聞いたことを書き留めたりしていました。

ただ、いろいろなことについての話はできたとしても、次にしっかりとつながっていないような、漠然とした不満・不安を感じる面談になることもありました。また、私と保護者の間で話が弾んでしまい、生徒にもっと話をさせたかったと反省することもありました。今回、お二人の先生とお話をする中で、私を感じていた不足は、生徒自身がこれから語る場面の有無に起因するものだと納得しました。面談が終わった後、生徒と私の間に「To Do（するべきこと）」が共有できる状態を目指したいです。

また、先生方と語り合う中で、生徒に数値目標を宣言させることを躊躇（ちゅうちゅう）していた自分に気づきました。生徒の失敗を先回りして私が臆していたのかもしれない。生徒自身が自分に必要なことだと納得して宣言できる目標を、勇気を持って語れる面談を、生徒を肯定しながらつくっていききたいです。

高橋先生プロフィール 教職歴18年。同校に赴任して6年目。進路指導係。数学科担当。「生徒の可能性を見極めて、攻めの進路指導を行う」学校プロフィール 全日制/普通科、ライフデザイン科/共学/1学年約120人/2018年度進路実績（現役のみ）/私立大は、城西大、駿河台大、長野大、松本大などに延べ7人が合格。短大、専門学校進学61人。就職39人。

## 揺さぶりをかける事前の仕かけも時には必要

福岡県立高志高校 西 繁寿 にし・しげひさ



三者面談の時間は1組10分程度なので、事前に行う保護者へのアンケートや生徒へのヒアリングなどを通して、話題の焦点をあらかじめ想定しています。生徒に「面談前に保護者の方とこのテーマについて話しておいて」と伝えることもあります。その時のテーマは、生徒と保護者が話し合いを避けてきたものにあえてします。そうすることで、生徒と保護者に揺さぶりをかけるのです。それも両者の本音を引き出すための1つの方法です。三者面談では、あれこれ話題にしたくなりがちですが、短時間でこれまでを振り返り、これからを考えるのであれば、話題を拡散させる必要はありません。

今回の検討会では、「保護者の前で生徒を褒める」ことの大切さが話題になりました。私も生徒の次につながるような褒め方を心がけています。「今の君の頑張りをみると、きつと将来、こんなふうになれるはず！」などと、先輩生徒の例を挙げつつ、今取り組んでいることを肯定しながら、無理なく背中を押す声かけができるとよいですね。

**西先生プロフィール** 教職歴26年。同校に赴任して5年目。教務部。数学科担当。「何気ない1日1日を大切に」

**学校プロフィール** 全日制/普通科/理数科/共学/1学年約350人/2018年度入試合格実績(現浪計)/国公立大は、東京大、名古屋大、京都大、大阪大などに216人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西学院大などに延べ426人が合格。

## 教師は、生徒を本気で褒める材料を持つべき

福岡県立東筑高校 辻本貢士 つじもと・こうじ



三者面談のメリットは、親子の関係が目の前で確認できることです。進路選択における両者の価値観を把握することは、とても大切です。そして、生徒のやる気のスイッチを保護者の前で押せることも、三者面談の醍醐味です。成績が振るわない、部活動で挫折を経験したなど、壁に直面する生徒に対して、例えば、日々の清掃に取り組み姿勢など、些細なことでも教師が本気で褒めれば、保護者の子どもに対する見方は前向きなものになります。平素の生徒の姿をしっかり認めた上で、「この子はすごいものを持っている。でも、自分を信じ切れていない。それが私はとても悔しいんです」などと教師が本気の思いをぶつければ、生徒も保護者も耳を傾けてくれるはずですよ。

三者面談に限らず、生徒は自分という存在を認めてくれない相手の言葉には、なかなか耳を貸そうとはしないものです。そのため、生徒と向き合う時に私たち教師が一番問われるのは、その生徒を褒める材料をどれだけ持っているかだと思います。

**辻本先生プロフィール** 教職歴21年。同校に赴任して10年目。教育推進部教務班主任。数学科担当。「自分で考え、自らの意志で行動できる生徒を育てたい」

**学校プロフィール** 全日制/普通科/共学/1学年約320人/2018年度入試合格実績(現役のみ)/国公立大は、東京大、京都大、大阪大、九州大などに178人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ196人が合格。

改良したいのに、どうすべきか分からない……

### 指導ツールを募集しています!

「改良! 指導ツール ビフォーアフター」では、取材にご協力いただける先生及び取材で検討させていただく「指導ツール」を募集しています。「自校で長年使っているツールを見直したい」「ツールのより効果的な活用法を検討したい」といった、課題意識をお持ちの先生方のご応募をお待ちしております。

〈個人情報の取り扱いについて〉をご確認いただき、必要事項①~④をご入力の上、指導ツールを添付して下記のe-mailアドレスにご送信ください。

※送信前に一度、生徒情報が削除されているかご確認をお願いいたします

- ①学校名・お名前
- ②分掌・ご教職歴
- ③ツールの内容(目的・活用時期・活用方法)
- ④ツールに対する課題意識、改善要望

view21\_since-1975@mail.benesse.co.jp

〈個人情報の取り扱いについて〉 この「改良! 指導ツール ビフォーアフター」のツール募集でご提供いただく個人情報は、今後の企画を検討する目的で利用いたします。お客様の意思によりご提供いただけない部分がある場合、手続き・サービス等に支障が生じることがあります。また、商品発送等で個人情報の取り扱いを業務委託しますが、厳重に委託先を管理・指導します。個人情報に関するお問い合わせは、個人情報お問い合わせ窓口(0120-924721、通話料無料、年末年始を除く、9時~21時)にて承ります。(株)ベネッセコーポレーション CPO(個人情報保護最高責任者) 上記をご承諾くださる方はご送信ください。